

# 諏訪小だより

令和5年 10月16日  
10月特別号  
多摩市立諏訪小学校  
校長 齋藤 幸之介

## 運動会を間近に控えて

昨日の冷たい雨は、しかし本校グラウンドには適度なお湿りを与えてくれ、校長室から見るその様子からは「落ち着き」さえ感じさせてくれます。先週末に練習の一層の充実を図るべく改めてグラウンドの白線引きを行いました。多くは流されてしまいましたが、一方で残った線は水分を含んだが故に確実に残った、とも言えそうです。

今週末の21日(土)に迫ってきた運動会本番に向けて最後の準備を整えているところです。

### 改めて「運動会」の位置付けを考える

2週間ほど前からグラウンドや体育館を中心に運動会の練習を始めました。当初は教員の指示に従いながら、子供たちは主に表現の仕方を確かめ、徐々に音楽に合わせながら自分の動きを確認しました。表現活動や団体競技の確認も進んでいます。

運動会は、学校の教育活動のフレームワークである学習指導要領で言うと、「特別活動」という領域の「学校行事」にある「健康安全・体育的行事」に位置付けることができます。規律ある集団行動を身に付け、運動に親しむ態度を育て、責任感や連帯感を育むことを通しながら、体力の向上も目指していきます。

少し別な角度から見ていくと以下のようにも説明できます。

昨今、「教科等横断的」という言葉が重視されています。教育活動が単に一つの教科や特別活動などに止まっているのではなく、いくつかを関連させて扱っていく、ということです。例えば、4年生は社会科で「ごみの処理」について学びますが、これを社会科に止めておくのではなく、総合的な学習の時間につなげて「地域の環境」などを考える、ということです。この総合的な学習の時間には、細かく言えば、ごみの量を測ることになれば算数科ともつながりますし、今後の地域のよりよい環境をまとめる際には国語科の書いたり話したりする力も求められます。

運動会も、多くの教科や領域をつなげながら総合的に扱う学校行事と言えます。

### 運動会に見られる様々な学習内容

改めて本校の運動会を分析したいと思います。

「運動」会ですから、当然体育科が中心となります。短距離走は「走・跳の運動」に位置付き、得点種目となる団体競技はルールを守りながら行う「運動遊び」や「体づくり運動」に関連し、また「表現活動」も取り入れます。

先程申し上げた「集団行動」は、例えば全校朝会時に整列をしたり行進をして入室したりすることが大いに関係しています。運動会の際にだけ取り組んでもできるわけではありません。

また、主に5・6年生になりますが、競技・演技を支える運営に関わる係活動にも携わります。用具の準備、短距離走を中心とした審判、得点、放送など、全体を支える多岐に亘る取組を行います。多くの子供たちが憧れる応援団は、全体の気持ちを盛り上げるのに欠かせない役割をもっています。応援団が昼休みなどに練習を重ねるなど、係活動はすでに取組を始めています。

さらに、ルールを守って競技を行うこと、粘り強く取り組むこと、勝敗には公正な態度を示すこと、友達と競い合ったり協力したりしながら自他を認めること、そして運動会全体を通して自分のよさに気付くこと、といった道德教育が大いに関わってきます。

先程お伝えをしたように、本日より19日(木)まで学校閉鎖といたしました。少しでも早くに収束を迎え、そしてできれば予定通りに実施したいですが、慎重に判断しなければならない、とも考えています。変更等がございましたら、できるだけ迅速に御通知を差し上げますが、もしばらくお待ちくださいますようお願い申し上げます。いろいろと御迷惑をおかけしてすみません。

<参考>

小学校学習指導要領(平成29年度告示)

(平成29年、文部科学省)

## 御礼（「私の夏のチャレンジ」の御報告を兼ねて）

過日私の夏のチャレンジの展覧会を行いましたところ、多数御参観をいただきました。また、本取組を行うに際して保護者及び御家族の皆様には深い御理解と多大なるお力添えを賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。

今回多くの感想をお寄せいただきました。ありがとうございました。

今後につながる貴重な御意見を頂戴いたしました。今後に生かすべく私なりにまとめましたので、お伝えをいたします。

### 子供たちの作品について

何よりも、子供たち一人一人の作品を高く評価をしていただきました。「発想の面白さ」、「創造力」、「工夫」、「純粋」な取組、「満足感」、さらには「細やかさや詳しさ、着眼点」を始めとする御言葉からは、子供たちのよさを認めていただけている、と感謝の気持ちで一杯です。このことは、子供たち一人一人が「取り組んでよかった」と気付くことにつながり、さらには自己肯定感を高めることにもなります。御紹介申し上げます。

### 「アイデアシート」「計画書」と「トライ&エラー」

次の項目で述べますが、私の夏のチャレンジは本人のみならず保護者の方々にもいろいろと御苦労をおかけする活動でもあります。このことは、ここ数年来毎年のようにメディア等で取り上げられます。

このことを少しでも軽減すべく、私共は夏休みに「アイデアシート」「計画書」を立てるようにしています。この効果はいかがだったでしょうか。

以下の意見を頂戴しました。「予め学校で計画を立てさせないのも一案かと感じました」、その理由として「計画を立てすぎて、それに固執してしまったのか、それ以上のトライがなかったように思います」と記されていました。計画は詳細な方が取り組みやすいであろう、と考えがちですが、子供たちに任せることにも意味がある、と確認できました。昨年度まで本校で主に国語科学習についての御指導をくださった井出一雄先生がおっしゃった「子供たちに活動を委ねる」とこと重ねています。

必ずしも大きな成果にはつながらないかもしれませんが、しかし、「いろいろやったけどダメだった、というのも十分に評価に値する、という刷り込みをもう少ししてあげるとかえって研究の幅は広がるよう

に思った」という御意見も貴重でした。来年度に生かしていこう、とっております。

### 保護者の方の関わりと作品の「できばえ」

保護者の方々には多くの御協力を得られました。「だいぶ手伝った」「一緒に物作りをした」「親子で取り組めた」「共々悩んだ」「親子でコミュニケーションをとりながら作業するよい機会である」などといった御意見をお寄せいただきました。正直「よかった」と思いました。

一方で、保護者の方のフォローが足りなかったのではないかと、もう少し介入すべきだった、という御意見も頂戴しました。このことは、作品のできばえ、仕上がりにも関係しているようでもあります。

確かに、危惧されていることもおありかと思えます。ここで、改めて「夏チャレ」を一般的には「自由研究」と言われていることに着目したいと思えます。確かに、先程申し上げた「自己肯定感」も多くは成功体験から生まれるでしょう。しかし、「自由」、つまり一人一人の思いや願い、疑問に基づき、自分なりの発想で進めることが重要なのですから、極端に言えば、結果を求めすぎる必要はない、と考えますがいかがでしょうか。よく「みんなちがってみんないい」などと言われますが、この段階での一人一人の到着点を大人が最大限に認めることこそが大切、と確認する次第です。

### さらに参観していただけるように

開催時間が限られていましたので、この点については来年度の検討事項といたします。一人でも多くの方々に私の夏のチャレンジのよさを御理解いただきたく、工夫をしていきます。

保護者の方々にも、また子供たちの中にも、今後の刺激になった、との御意見も頂戴しました。今年度の取組が来年度に生かされることを願いつつ、「私の夏のチャレンジ」が相互に認め合える場となるように改善に努めてまいります。

最後になりますが、私の夏のチャレンジは成立するものではなく、運動会同様、平素の様々な活動の成果を生かしながら取り組むことが重要である、と位置付けています。私の夏のチャレンジが教科等の学習に活用されることも大いに期待しているところです。来年度の取組が一層充実するよう、日々を大切にしていきます。